


 塩冶
地区

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩冶地区社会福祉協議会 事務所 塩冶コミュニティセンター内 TEL 21-0248
塩冶社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

～平成28年度“評議員会”開催～

平成28年5月12日(木)、今年度の塩冶地区社会福祉協議会評議員会が理事31名(旧理事10名、新理事21名)、評議員15名、監事1名で開催されました。

会議では平成27年度の事業報告及び決算並びに監査報告が行われました。基本目標に「ぬくもりある手づくりによる福祉のまちづくり」を掲げ、地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉及び青少年育成を基軸に、各種活動を進めてまいります。

塩冶社協の事業財源は、香典返しなどの寄付金、参加者の負担金、市社協の補助金、そして塩冶自治協会や塩冶クラブからの交付金等により賄われています。限られた貴重な財源を有効に活用するためにも、計画及び実行にあたっては地区の諸団体と協働し、また出雲市や出雲市社会福祉協議会と連携・協力し、住民が主役を基本に、真に実効ある地域福祉の増進に努めてまいります。社協の各事業は5部会、(1)企画部 (2)総務部 (3)広報広聴部 (4)高齢者・障がい者福祉部 (5)青少年育成部 により活動を行っています。

また各区域においては、理事や福祉委員が中心となって、「ふれあいサロン事業」が行われています。いろいろ工夫された行事が年間を通して行われていますので、お誘い合わせでご参加ください。



今年度の主要な事業

平成28年	6月	戦没者追悼・平和祈念式 高齢者料理教室(話食交流会)
	7月	福祉座談会、社協便り発行 ユニバーサル・デザイン公園調査
	9月	高齢者福祉大会
	10月	認知症研修会 児童福祉綱引き大会
	11月	福祉座談会 ひとり暮らし高齢者懇談会
	12月	社協便り発行
	平成29年	2月 高齢者料理教室(話食交流会) 3月 社協便り発行
	通年	ふれあいサロン事業(各地域毎)

後列左から 福間仁範、小島 毅、岡本捷一
田中昌典、坂本裕二、岡代忠雄
中列左から 増原福次、布野幸一、矢田邦雄
古瀬勝彦、飯國文雄 ※児嶋早智江
前列左から 佐藤真澄、周藤由紀子、花田敦子
中尾一彦、永岡博之、大賀幸恵
※印はコミセンマネジャー



〈塩冶地区社会福祉協議会役員名簿〉 下線は新任の理事

会 長 中尾一彦 副会長 花田敦子
理 事 古瀬勝彦(菅沢)、飯國文雄(半分)、布野幸一(築山)、坂根勝男(宮松)、土屋 淳(下沢)、矢田邦雄(揚西)
周藤由紀子(揚東)、福間仁範(弓原)、永岡博之(高西南)、大賀幸恵(高西南)、高塚勝昭(高西北)
柘植 真(高西北)、田中昌典(大正海上)、小池映二(大正海上)、飯塚克人(天神団地)、岡本捷一(北天神)
小島 毅(北天神)、坂本裕二(南天神)、佐藤真澄(中天神)、岡代忠雄、増原福次
監 事 桑原弘実(宮松) 大塚昌雄(弓原) 坂本節郎(南天神)

塩冶地区戦没者追悼・平和祈念式



6月4日(土)、妙雲寺において、塩冶地区社会福祉協議会主催により「塩冶地区戦没者追悼・平和祈念式」が、町内5寺(長楽寺、妙傳寺、妙雲寺、本覚寺、浄音寺)により営まれました。

法要は遺族の方々33名、来賓として塩冶地区自治協会会長 板倉重安様

ほかの出席により、戦没者名簿奉呈、各寺住職による読経、その後には塩冶地区社会福祉協議会中尾一彦会長が追悼のことばを述べました。

続いて塩冶地区遺族会飯國克郎会長から戦没者への想いを込めた謝辞が述べられ、最後に妙雲寺の坂本圭祥住職より、「追悼会に想う」と題して法話があり、参列者全員で熱心に拝聴しました。



妙雲寺坂本圭祥住職の講話

「追悼会に想う」

本日は塩冶地区戦没者182柱の諸霊追悼法要にご参列、誠に有難うございます。

先般、サラリーマン川柳に「退職金もらった瞬間妻ドローン」と言うのがあり

ました。さまざまな場所に飛んでいける小型無線機のドローンと、姿をくまます「どろん」とを掛け合わせた川柳ようですが、時代は変わりましたね。熟年離婚の増加や仲間で旅行に出かけるシニア女性が多いことが背景にあるのではと分析されています。こうした川柳を見ていますと平和であるとも思われますが、しかし笑いはあっても人間味としては笑えないものを感じます。

かつて島田洋七さんの書で「がばいばあちゃん名言集」を読ませて頂きました。その中で①人に気付かれぬようにやるとが本当の優しさばい。②人間は死ぬまで夢ばもて、その夢が叶わんでもええ、所詮夢じゃから。③つらい話を夜するな、昼間すればどんなつらい事でもたいたことなか・・・と。

島田洋七さんは、戦後の生活難の時代に貧しい生活の中でおばあちゃんからこんな話を聞かされた。いま成長してこの話の意味合いが理解出来るようになったと言う。がばいばあちゃん名言集の一部ですが、人間愛と申しますが、言葉のひびきが温かいですね。

先日、事件がありました。ドライブの帰りに言うことを聞かないので、しつけと称して小学校2年生の少年が山の中に置き去りにされて行方不明になった。元気な姿で見つかったよかったものゝ、しつけと言う親の愛にしては冷たい仕置きです。今日、社会なり家庭の親子の関わりなど、自分を中心に考える欲望や感情が根底にある様に思われます。

法華經の如来寿量品と言う經文の中に「放逸著五欲 墮於惡道中」と。放逸にして五欲にして五欲に著し惡道の中に墮なん、と読みます。五欲とは、眼・耳・鼻・舌・身の五感を満たそうとする五つの欲望です。美しいものを見、すてきな樂べを聞き、かぐわしい香りを嗅ぎ、美味しいものを食べ、常に身体は健康でありたい。

なんと贅沢な欲望ですね。この欲望に囚われすぎるから惡道に墮ちる。つまり色々な弊害が生じて人と人との摩擦が生じると喩された言葉です。社会が豊かになる程、益々欲にかられるのが凡夫であり、人の常なんですね。常に人權を尊重し、平等の中で関わるからこそ大切と思われま

す。がばいばあちゃんが更に「世間に見栄を張るな。徳川家康も豊臣秀吉も死ぬ。うちのじいちゃんも死ぬ。頭のよか人も頭の悪か人も金持ちも貧乏人も死ぬ。生まれて50年経てばみんな50歳じゃ。身分の差はあってもみんな平等に死ぬ。正直に生きることが基本だ」と。人はすべて平等に生まれて命を授かる。そして親の恩愛をうけて育まれるものです。

日蓮聖人は「刑部左衛門尉女房御返事」と言うお手紙の中で「3ケ年の間、壟ごろに養う。母の乳をのむこと180斛3升5合なり・・・(中略)・・・乳1升の値いをしらべて候えば、米に当れば1万1千850斛5升、稲には2万1千700束に余り、布には3370反也。何に況んや180斛3升5合の値いをや」と。

私たちは生まれて母の抱擁の温もりの中で平等に育まれる。この育みの延長が祈りにつながり、子供の發育を日常的に祈り続けたいものです。

戦後71年になりますが、国の為に失われた尊い命も、祈りの中で育まれた命です。この命を偲び、戦争を知らない世代の人々に、子々孫々語り継ぎてこそ英霊の追悼と思われま



高齢者話食交流会

6月21日(火)、高齢者・障がい者福祉部では、塩冶地区の高齢者の方(11名)、社協理事・福祉委員を含め、総勢22名で「話食交流会」をコミュニティセンター調理室で行いました。

調理指導に地域活動栄養士の錦織まゆみ先生をお迎えし、「夏の胃の働きを助け、むくみ熱から守る食材で!」をテーマに、今日のメニューは「鶏ミートローフ、夏やさいのトマト煮込み、サラダ中華、ごうやプリン」の5品とごはんでした。

最初に先生から、レシピの説明や今日選んだ食材の意味やその効用、食材の切り方、調理や下ごしらえの工夫、塩や調味料の注意点等の詳しい話がたくさんありました。これにみなさんうなずきながら聞かれ、料理を考えるうえでとても参考になったようです。

その後は参加者に社協理事も交えたメンバーが4班に分かれ、一緒にわいわいガヤガヤ、楽しく話しながら、うまく分担して調理が進みます。



冷やす時間が必要なごうやプリンが最後になる班もありましたが、各班ともなんとか時間内にレシピ通りに出来上がりました。

【メニュー】(左から)
ごうやプリン
夏やさいのトマト煮込み
サラダ中華
鶏ミートローフ



最後に全員で会食です。料理づくりの感想や世間話に話しも弾み、終始楽しい一時を過ごしました。

(取材 広報広聴部)

天神 サロン会

簡単な野菜作りと 健康寿命を延ばすために

5月22日(日)、今年度最初の茶のん話会を天神集会所において、48名の参加により開催しました。

午前は、JAしまね出雲地区本部中部営農センター営農相談員井上春樹様より、「簡単な家庭菜園健康づくりに美味しいミニトマトを作りましょう」と題して講演していただきました。



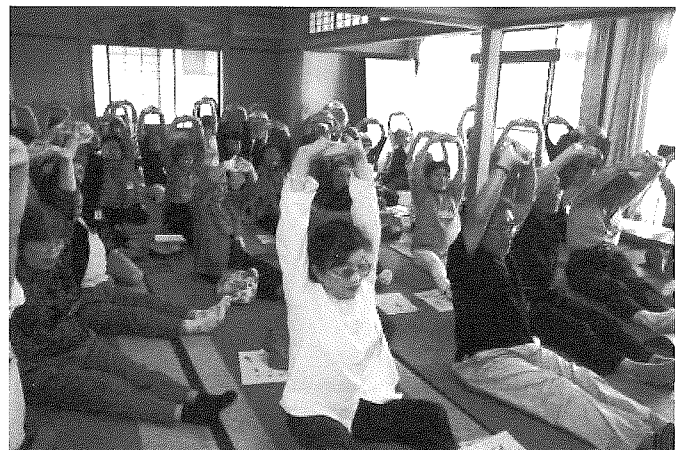
まず土作り、溝に完熟牛ふん堆肥・化学肥料を入れる。ミニトマトは2本仕立て、ナスは3本仕立てにする等、楽しく講演を受けることが出来ました。

野菜作りの話しが少し早く終わったので、塩冶社協花田敦子副会長の地元の民話で、乙立地区の「きつねのへんげだま」と「塩冶神門寺のかえる」の二話を出雲弁たっぷりの語り口で大変楽しく聞かせていただきました。

午後は、出雲市役所健康福祉健康増進課福岡紀子様、佐々木愛様による「健康寿命を延ばすために転倒防止など・・・」と題して講演していただきました。

健康寿命を延ばすために・・・とのことで、要介護となる原因の第一が脳卒中だそうです。脳卒中は男性の3人に1人、女性では6人に1人。

また女性4人に1人は関節や骨の病気との事です。この予防のためには、毎日の軽いストレッチ体操や血圧測定、体重測定を行うこと、自分の体調管理がとても大切との事でした。



最後に、全員で軽いストレッチ体操を幾つか行い、体のほぐれたところでサロン会を終了しました。

(理事 小畠 毅)

揚西 サロン会

ともに笑って 明るい健康づくり

6月7日(火)、揚集会所において、今年度最初のふれあいサロン会を開催しました。参加人数32名、80歳代女性がメインです。

今回ご依頼した講師は、この春に島根大学医学部を退官されたばかりの医学博士であり、他にテニス・バレーボールの公認上級コーチとしてご活躍されている木原勇夫様、すごい先生です。

さて、いよいよ演題の健康体操の開始です。

硬式テニスボールで太ももや肩・首周りをゴロゴロ、ゴロゴロ、「もっと優しく、もっとゆっくりと！」

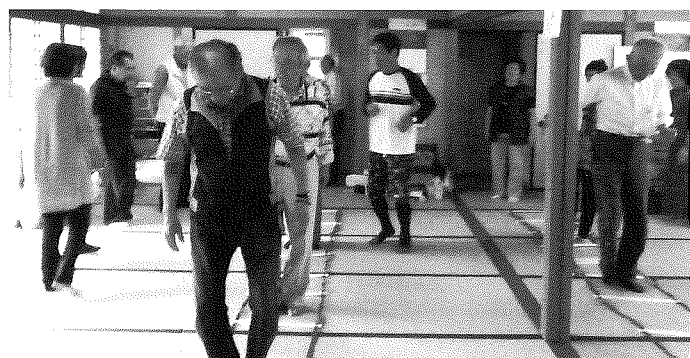
しばらく続けたところで「ハイッ！ 手・足を上げて見ましょう。前と比べてどうですか？」

皆さん、アウ不思議、手・足が軽くなっている……



「次は少しだけ頭を使いながらの体操です。100から5ずつ引いた数を大きな声で数えながら、この枠の中を順番に歩きましょう。」

頭と足の動き、これを同時に。ウーン、意外と難しい。



「次は、割り箸を横にくわえて、30秒間」

『イーッ』……などなど、数多く繰り出される体操メニューに、ややヘトヘトの人も。一方で、講師の指導の折々に飛び出すジョークに、会場の皆さんの笑い声、ニコニコ顔は見ていて何ともうれしい。

演題に掲げる「人の輪にあって、ともに笑って、出来る範囲で手足を動かすこと、これを習慣化することでともに明るい健康づくり」は、今後も心掛けたいものです。

初めて主催したサロン会も、皆さんの「楽しかった。」の言葉のうちに何とか終わることが出来て、安堵しているところです。

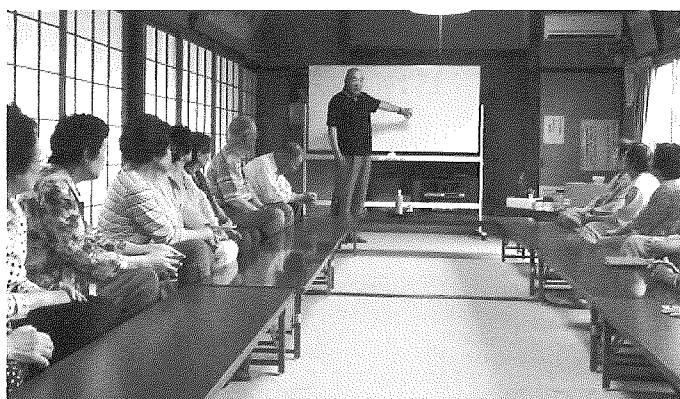
(理事 矢田邦雄)

高西 サロン会

相圓寺(高松町) 村上友章住職の法話

6月24日(金)、高西公会堂において、今年度第1回のサロン会を開催しました。当日は、雨模様にもかかわらず31名(役員を含む)の参加があり、会のはじめには今後のサロン会の参考にアンケートもとらせていただきました。

その後、高松町の相圓寺、村上友章住職の法話を「おもしろ、おかしく、時には「しみり」と聴かせていただきました。



村上住職は、若い頃より平成25年に高松町に帰郷されるまで、東京の豊島区巣鴨にある高岩寺(通称とげぬき地蔵)にお勤めされていたそうです。

本尊の延命地蔵菩薩が諸病に効く「とげぬき地蔵」として有名になり高岩寺周辺はお参りするお年寄りがほとんどで「おばあちゃん達の原宿」と言われるくらいにおばあちゃんのモンストラ(モンペ+スラックス)でにぎわっているとか？

身の上相談に来られる人も多く、「嫁・姑」の問題や「子供の教育」等について色々あったそうです。

最後に 〆他方面から物事を見る

〆思い込みで判断は絶対しない

〆相手の話を最後まで黙って聞く

〆率直に「ごめんなさい」を言う 等

含蓄ある言葉で締めくくられ、これからに活かしたいと思いました。



その後はリラックスムードでビンゴゲーム。素敵な景品をゲットしたのち、恒例の大好評の昼食をいただきながら談笑し、13時頃に散会しました。

(理事 高塚勝昭)

6月16日(木)、斐川町の「四季荘」において、第1回のサロン会を16名の参加者で開催しました。

出雲市民病院医療相談室の中谷昭二様、出雲市役所医療介護連携課の山本様をお招きし、「病院との上手な付き合い方」と題して講演を行っていただきました。

中谷様からは、「大きな病院には必ず医療相談員がいるので、何か困ったことがあればまず相談してください。全部は解決できなくても解決へのきっかけになるはずですよ。」とお話がありました。



病院の目的は大きく分けて4つ

- ①急性期病棟(必要な入院治療を行う)
- ②地域包括ケア病棟
(急性期後の体調管理・リハビリ)
- ③回復期リハ病棟(リハビリの充実)
- ④療養型病棟

(医療の必要が高く、長期療養が必要)

この目的が達成されると退院となり、以前の療養型病棟では長期入院も可能でしたが、現在は医療依存度が低くなれば退院という方向に医療指導が少しずつ変わってきているということです。

お話の中、医療や介護サービスを利用する高齢者に対するアンケートで、「出来ることなら住み慣れた自宅でいつまでも暮らしたい」という声がある一方、病院にいと必要な医療がすぐに受けられるが、自宅療養では十分な医療が受けられないのではないかと、家族に負担がかかるのでは?などの声もよく聞くということでした。

その他、医療や介護についてみなさんが聞きたいような基本的なことをパンフレットにしており、在宅医療を推進するために町内や地区単位で説明会を行っているので、申し込みがあれば出かけますとお話でした。



その後は昼食を食べながらの懇親会で、今日の話や日常のこと等、にぎやかに楽しく交流ができました。

(理事 福間仁範)

6月24日(金)、今年度第1回のサロン会を14名(社協理事、福祉委員を含む)の参加により、二つのテーマで行いました。

最初は出雲警察署駅前交番の藤原所長より、「振り込め詐欺」の注意点や最近の事件等、日常生活で気を付けてもらいたいことについてお話しいただきました。

最近被害のあった松江での警察官を語った特殊詐欺や犯行グループの指示で銀行から現金を引き出し、自宅を訪れた日本銀行職員を名乗る男に渡してしまった事例です。犯行は高齢者宅を狙ったもので、警察官や日銀職員が現金を回収することは絶対ないとのこと。

また最近で起こった強盗事件や空き巣等、身近な事件の話もあり、みなさん振り込め詐欺だけでなく、空き巣等に対しても改めて気を付けないといけないと話されていました。

次の「銭太鼓」の講師は西村富美子先生です。コミセンで子どもたちを対象に銭太鼓等の指導をされており、忙しいなかでご指導いただきました。

まず銭太鼓の持ち方や動かし方、座り方等から始まり、その後に「おさるのかごや」のメロディーに合わせて先生の実演です。これを見たみなさん共に「無理だわあ〜、覚えられんわあ・・・」の声。その後は何度も何度も基本的な動きを教えていただき、一応の練習の後に曲に合わせて演技を行っていくと、アラ・・・不思議、みなさんだんだん「銭太鼓の恰好」になってきます。



最後の頃に、「もう少し大きな動きで、振りは大きく、手は高く・・・」といった先生の一声で演技は見違えるように揃うようになり、これには先生も「指導の甲斐あったわあ」と喜んでいただきました。みなさんからは「やってよかった、もっと集まればよかったのに」といった意見も出るほどに。最後に食事会、参加者みんなで銭太鼓のことや日々の生活での想い等、いろいろ話しがはずみました。

(理事 土屋 淳・古瀬勝彦)

ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。今後とも、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

(3月1日から6月30日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名 故人名 区域名 寄附金額

篤志寄附

寄附者名 寄附金額

※ 掲載欄の 一は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

4月、理事改選で再スタートと思っていたその矢先、熊本では過去に例がない大きな地震、広域に甚大な被害が発生し、たくさんの方が被災されています。被災地の実情は想像を遥かに超えるもの、こころよりお見舞いするとともに一日も早い復興をお祈りいたします。出雲で同様な地震が発生することはほとんどないのかもしれませんが、日ごろからもしかの場合のために自分であることを考え、可能な範囲で備えをしたいものです。

さて新年度、広報広聴部は新しいメンバーでこの“社協便り”作りに取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。(理事 古瀬勝彦)

*この「地区社協便り」は、出雲市社会福祉協議会からの助成金を財源の一部として発行しております。

昔からある遊びの体験!



7月2日(土)、青少年育成部は塩冶小学校に通う外国人児童とその家族を対象に、日本文化体験の集い「昔からある遊びの体験」をコミュニティーセンターで行いました。

準備した遊び

- ・ゴム鉄砲
- ・紙飛行機
- ・折り紙
- ・ゴム飛び
- ・竹とんぼ
- ・羽根つき



参加されたみなさんにとって初めて見る遊び道具がほとんどです。社協理事の説明を聞き、手に取ってなんだかやってみるとすぐに慣れ、歓声を上げながらにぎやかに遊ぶことができました。

最後に、まもなく七夕ということで、社協で準備した手づくりのおりひめとひこぼし、提灯や天の川の飾り等と想いを書いた短冊でささ竹を飾りました。今回は参加者が少数でしたが、理事も一緒に昔を思い出しながら楽しく遊びができました。(取材：広報広聴部)

◆◆◆愛友会だより◆◆◆

5月13日(金)、コミュニティーセンターにおいて、愛友会会員23名、準会員3名の内、14名の出席により、平成28年度愛友会総会があり、社会福祉協議会会長(中尾一彦)の挨拶の後に27年度決算及び活動報告、続いて28年度予算案・活動計画案の説明がありました。

協議のなかで今年は“組織拡大”の取り組みに力を入れたいと活発な意見が取り交わされました。

現会員の高齢化もあり、身障者の会(塩冶愛友会)の存在と活動内容を広く知ってもらうため、チラシ等で拡大につなげたいとのことでした。またお出かけの時にボランティアの人に参加してほしい、安心感があり出掛けの気持ちになるので1人でもいいので参加してほしい・・との切実な意見もありました。

身障者の方、入会して一緒に楽しみませんか

問い合わせ

愛友会会長 伊藤義雄

TEL 24-3572

